



## 地盤改良技術国際会議に参加して

— 第3回2000年9月シンガポール会議 —

周 詩 廣\*

### A Report for Participation in the 3<sup>rd</sup> International Conference on Ground Improvement Techniques(Singapore)

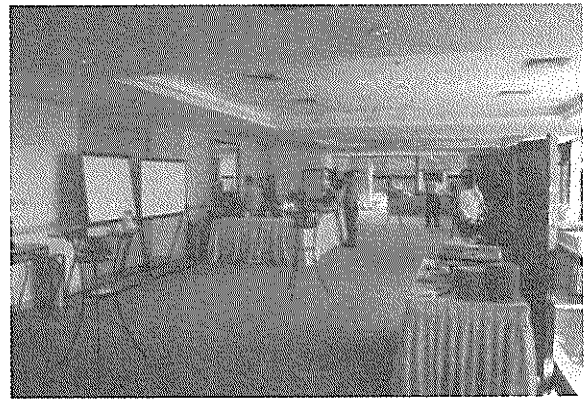
**Key Words :** International Conference, Ground Improvement Techniques, Singapore

観光の国、あるいは金融の国と思われているシンガポールは、1965年にマレーシア連邦から独立し、人口310万人を有する。地理的には赤道直下で、一年中真夏の25～27度である。1999年のシンガポールの国土面積は、647.5km<sup>2</sup>で淡路島より少し大きい。買い物で有名なオーチャード通り、セントーサ島、マライオン、動・植物園などの観光スポットが数多くあり、ガーデンシティと呼ばれるように、観光地としてよく整備され、緑豊かな国である。また、海上コンテナの取扱量では、中国の香港に次ぎ、世界第2位である……シンガポールに対する知識的なことを思いながら、9月24日の朝、キャセイ・パシフィックのフライトで初めてシンガポール国際会議の旅に立った。

香港経由の格安航空券なので、9時間後の午後6時半にチャンギ空港に到着して、さっそくインターネットで予約している市内のホテルへ向かった。イメージ通り、あきらかに秋の到来を感じさせる大阪の天気に対して、こっちの方は蒸し暑くてたまらない。タクシーに座り込み、熱心なTaxi Driverの話聞きながら、夕日に照らされているEast Coastや市街地の高層ビルを車窓越しに覗き、美しくてさすがシンガポールだな、と感心させられた。

翌日の朝、会議場のHotel New Otaniの6階まで駆けつけ、登録を済ませて開会式に参加した。

この会議はCI-Premier Conference Organizationの主催で第1回のマカオ会議、第2回のシンガポール会議に次いで今度その3回目となるのである。



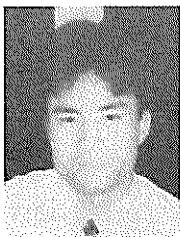
Hotel New Otaniでの受付

公式の参加者は22ヵ国から約90名から構成される。最終採択論文数は53編であり、4編のテーマ講演などを併せて、450ページの論文集として印刷・出版されている。

1日目の日程として、まずは会議主席であるシン



発表の質疑風景



\* Shi-guang ZHOU  
1970年7月5日生  
2001年大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻・博士後期課程修了  
現在、ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社・土木設計第一部、技師、工学博士、土工学(地盤)  
TEL 06-6303-1446  
FAX 06-6303-3929  
E-Mail shuu@jrnc.co.jp

ガポール国立大学 K Y Yong 教授より歓迎の言葉およびポルトガル地盤工学会会長の P S Seco e Pinto 教授のご挨拶とその次ぎの2編のテーマ講演からなる Opening Session である。そのあとに、お昼から引続き四つの Technical Sessions の口頭発表は2組に分け並行して行われる。

会議のテーマは次の5課題に大別される。

- ① 土の物理・化学安定
- ② 盛土・地山補強
- ③ コンパクション関連
- ④ 注入技術と土の熱的安定
- ⑤ 地盤改良と深層混合工法

テーマ講演の講師およびそのテーマは以下の通りである。

- (1) Prof S L Lee (シンガポール) : Design considerations of fibredrain in ground improvement work.
- (2) P S Seco e Pinto (ポルトガル) : Improvement techniques of cohesive materials.

Lee 教授はとてもユーモアに富んでいる年輩の先生である。残念なことに、筆者は英語力が乏しい上に、アメリカ式の発音に慣れてきたせいも、その講演の約50パーセントしか聞き取れなかった。このような失敗を繰り返さないよう、それからは講師の講演を聴きながら、その原稿を必死に読むようにしていた。Pinto 教授はヨーロッパで活躍されている有

名な先生であり、粘性土材料の地盤改良技術を総括された。

筆者の発表は、午後初めての Technical Sessions の一番目となった。発表する前に、座長である Prof M I M Pinto とコンタクトをとって、さっそく発表を準備する。やや緊張気味ながら、準備しておいた OHP を使い、約10分で時間通り発表した。本セッションは5編の口頭発表より構成され、本会議の6つのセッションの中に唯一の補強土工法に関するセッションである。

質疑応答は口頭発表が終わってから始まった。筆者の発表に対して、韓国の Kim 助教授とシンガポール国立大学の Tan 先生からスチールグリッド補強材のコスト、溶接点の強度および補強材の防錆について問われた。簡単な英語であるが、その答えは約80パーセント理解してもらったと思っている。

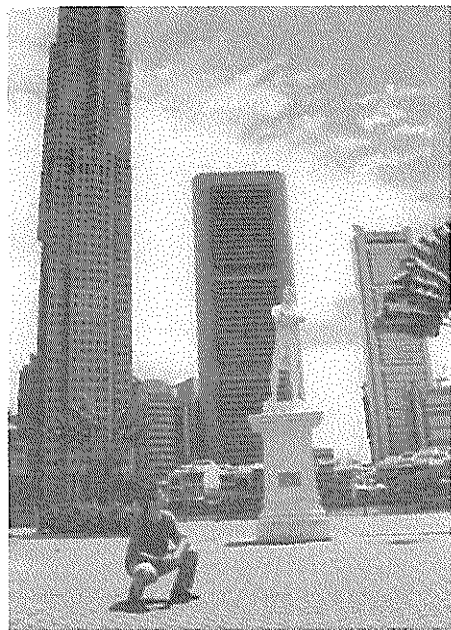
2日目のスケジュールは前日と異なり、午前のテーマ講演のあとに2つの Technical Sessions が続いた。

テーマ講演の講師およびそのテーマは以下の通りである。

- (3) G Rajasekaran (日本) : Role of ground improvement technology in geo-environmental engineering.
- (4) Prof M Isabel M Pinto (ポルトガル) : Microrreinforced soil.



座長・論文集のエディターである Prof M I M Pinto



ちょっとした市内観光(シンガポール川周辺)

閉会式では、Pedro Seco e Pinto教授の講演があり、今後の地盤改良における研究方向や課題に関するコメントを行ったあと、2日間の会議のスケジュールが終わった。

初めて国際会議に参加させていただき、いろいろとたいへん勉強になった。英語の勉強不足を痛感しているほかに、まちまちな英語発音に興味深い。また、意外なことに、OHPでの発表は少なく、PowerPointを利用し、発表されている方は多かった。ちょっと物足りないのは、専攻分野である補強土工法に関する発表が少なかったことであろう。

最後に、今回海外発表に際して、渡航助成金を頂いた社団法人生産技術振興協会に、またこのチャン

スをくださった指導教官の松井保教授が筆者の原稿執筆中、何度も添削して頂いたことに厚く感謝申し上げます。

#### \*追記

筆者は、2001年3月23日に無事博士後期課程を修了し、大阪大学から博士(工学)の学位を拝受しました。留学チャンスを与えていただいた工学研究科土木工学専攻の松井保教授に留学全期にわたり、ご指導とご教示をいただき、たいへんお世話になったことを、この場を借りまして衷心より謝意を表します。

